地域と学校をつないで食文化の伝承を図る授業開発

～地域社会との繋がりが生徒を成長させていく～

広島県立大竹高等学校　　児玉　智美

１　はじめに

生活実践力とは学習で得たものを実際の生活に活用する力，特に高等学校では社会とのかかわりの中で生活への関心を高めることが求められる。ここでは学校家庭クラブ活動の実践を通して，地域社会の中で，そして，人との関わりあいの中で生徒がどのような力を身に付け，変わっていったのかについても２つの実践例を通して考えていく。

「家庭総合」(4)生活の科学と環境　ア　食生活の科学と文化　(ｳ)食生活の文化　において

食生活に文化的な側面について，行事食や郷土食及びその由来，地域の気候風土で培われた伝統的な加工食品などに関心をもたせ，それらの中に生活の知恵が生かされていることを考えさせる。また，それぞれの地域で伝承されてきた行事食や日常食を取り上げ，調理実習を通して食文化を主体的に継承することの意義について考えさせる。

とあり，郷土食や地域の特産品を教材として取り上げることが可能である。

また，学校家庭クラブ活動の指導に当たり

学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解させること。

とある。家庭科の学習で習得した知識と技術を，どうすれば学校生活や地域の生活の場に生かすことができるのだろうか。問題解決能力や実践的態度を育成する機会を作ることはできないだろうかと考え，地域の食文化および特産品を教材として取り上げ，授業の充実と学校家庭クラブの活性化を目指して，食文化の伝承を図る教材開発に取り組んだ。

２　実践

(1) 実践例１「丸コンニャクと郷土料理作りを教材に」

湯来南高校が所在する旧湯来町（現広島市佐伯区）は水が豊かできれいなことから昔から丸コンニャク作りが盛んな地域である。十数年前までは各家庭で作られていた丸コンニャクやコンニャクを使用した郷土料理だが，現在では家庭で作る機会は減り，「このままでは地域の食文化が消えていくのではないかという危機感をもっている」という地域の声を聞き，家庭に変わり，地域と学校が結びつくことで地域の食文化を守ることはできないだろうかと考えた。

①工夫点

- **連携を行う者にとって，お互いにプラスになる取り組みとする。**
  高齢者から高校生へ知識と技術を伝えていく取り組みは，高校生にとっては，高齢者への尊敬と思いやりの心を育成する場となり，高齢者へは生きがいやよろこびの場となる。
- **継続できる取り組み内容にする。**
  毎年，実施できるような体制をつくる。（日程・費用・場所の確保など）
- **教わる立場から伝える立場へ。**
  高齢者から学んだ知識と技術を次は伝える側となって展開していく。この取組の中で生徒は人に伝えることの難しさと伝わった時の喜びと達成感を得ることができる。
- **先輩から後輩へ受け継がれる内容にする。**
  活動内容をまとめ，校内で展示発表を行い，生徒の関心・意欲を高める。
- **ひとりの生徒が複数回取り組めるように計画を立てる。**
  一度のイベントとして終わるのではなく，継続展開していくことが生徒の力を確実なものにすることができる。

②実践の概要（表１）

実践の概要	内　容	ねらい
1.　地域の特産品 丸コンニャク実習	・地域の気候風土，コンニャク作りの歴史について知る。 ・丸コンニャクの作り方を地域の高齢者から学ぶ。 ・高齢者との交流。	・丸コンニャクの歴史や地域の風土について関心をもつ。 ・丸コンニャクの材料，作り方について知る。 ・高齢者との関わり方を学ぶ。
2.　小学生への 地域の食文化伝承活動	・高齢者から学んだ知識と技術を下の世代に伝えていく。 ・小学生との交流。	・どうすれば上手く伝えることができるのか，思考力，判断力，表現力を身につける。
3.　郷土料理実習	・丸コンニャクを使用した郷土料理の作り方やいわれについて地域の高齢者から学ぶ。 ・高齢者との交流。	・郷土料理について知る。 ・地域の食文化を守る意義について考える。 ・高齢者との関わり方を学ぶ。
4.　郷土料理講習会	・高齢者から学んだ知識と技術を下の世代に伝えていく。 ・地域の方との交流。	・どうすれば上手く伝えることができるのか，思考力，判断力，表現力を身につける。
5.　地域の特産品 アイデア料理の研究	・丸コンニャクを使用した新たな料理を考える。	・丸コンニャクを幅広い世代に多くの方に食べていただけるような料理を考案する。
6.　地域の特産品 アイデア料理教室	・高校生が考案した丸コンニャクを使った料理を地域へ普及させていく。	・地域の食文化を守り，伝えていこうという姿勢を身につける。 ・表現力を身につける。

１地域の特産品丸コンニャク実習

２小学生への地域の食文化伝承活動

３郷土料理実習

４郷土料理講習会

５地域の特産品アイデア料理の研究

６地域の特産品アイデア料理教室

⑵実践例２「学校家庭クラブ活動の内容を家庭総合へ」

大竹高校は生産者（農家）や行政・企業とのつながりが深く，商品開発や商品化を目指してのアイデア料理の研究に学校家庭クラブでも取り組んでいる。特産品としては無花果・しいたけ・牡蠣などがある。3 年間で 15 種のレシピを考案した。そのうち，しいたけのアイデア料理である 2 種が大竹市マロンの里のレストランでの定食メニューに採用されている。無花果を使ったスイーツの開発を農協と連携して現在取り組み中である。無花果のレシピのひとつであるロールケーキを 1 学年家庭総合での調理実習の教材として取り上げ，地域の食文化を継承する授業を展開している。

①工夫点

・学校家庭クラブの活動を家庭総合の授業へフィードバック。

学校家庭クラブの活動にふれながら，地域の農業の現状や特産品について学び，最終的には食糧自給率や地産池消について考える機会を作っている。

調理実習でアイデア料理を扱うことで，特産品や地域への関心を高めることができる。

・校内での活動を充実させる

学校家庭クラブだよりを発行し，教室へ掲示する。アイデア料理の校内での試食会及びアンケートを実施し，学校全体の活動にしている。

・市や農協との繋がりを強くする

地域の方から直接指導を受ける機会を作る。地域のイベントへ積極的に参加し，活動の場を増やす努力をしている。

・小中学生を対象とした料理教室を計画。

伝える機会を作ることで，生徒の表現力を高めることができる。

②実践の概要（表２）

実践の概要	内　容	ねらい
1. 特産品アイデア料理の研究	・市，農協と連携し，地域の食生活充実に役立つ料理を考案する。	・多くの方に関心をもっていただけるような特産品を用いた料理を考案する。
2. １学年「家庭総合」 食生活の文化 調理実習	・地域の気候風土，農業の実態，特産品について知る。 ・無花果を用いた「まんマルスマイル無花果ケーキ」実習。	・地域の食文化に関心をもち，主体的に継承していくことの意義について考える。
3. アイデア料理の商品化	・市，農協と連携し，特産品を用いたアイデア料理の商品化を目指し，普及活動を行う。	・地域の特徴を生かし，地域活性化を目標に取組を行う。
4. 中高連携事業 高校生による 中学生への料理教室	・特産品アイデア料理を中学生に伝えていく。 ・中学生との交流。	・どうすれば上手く伝えることができるのか，思考力，判断力，表現力を身につける。
5. 市との連携事業 小学生への 特産品アイデア料理教室	・特産品アイデア料理を地域へ普及させていく。 ・地域（小学生）との交流	・どうすれば上手く伝えることができるのか，思考力，判断力，表現力を身につける。

１特産品アイデア料理の研究

２アイデア料理の商品化

３　結果

様々な活動を通して，生徒は次のような力を身につけることができた。

◎思考力・判断力・表現力

料理教室や講習会を企画し運営するには，何を，いつ，どのように伝えていくのかを考え，実行していく力が必要である。繰り返し実践していく中で，生徒同士で話し合いながら企画・運営ができるようになった。

◎コミュニケーション能力

交流会や地域のイベントを実施していくには，一方的に話を進めるのではなく，相手のことを考えながら話を進めていく力が必要であるし，質問にも対応できなければならない。多くの活動の中で生徒のどうにかして相手にわかるように話そう，伝えようと努力している姿や会話を楽しんでいる様子を見ることができた。また，人と話をすることがとても苦手な生徒が，活動を続けていくうちに人前で自分の思いを表現できるまで成長することができた。

◎行動力

地域からの期待が，生徒の“自分たちにもできる”という自信を作り出す。自信が“次はこんな活動がしたい，もう一度やってみたい”という思いとなり，その思いが行動力を引き起こす。生徒の行動力が地域での料理教室やアイデア料理の商品化を実現させた。

４　おわりに

大竹高校で４年目を向かえ，地域との繋がりも増えてきており，学校家庭クラブへの地域の期待度も年々高まってきている。地域での活動を通して，学び，身につけた技術をもとに，次の活動を展開させていく。ひとつのイベントとして終わらせるのではなく，次へと継続展開していくことが，生徒の力を確実なものとし，繰り返し実施していくことで生活に活用する力である生活実践力を身につけることができると考える。

地域での様々な活動を始めて 14 年目となるが，教員の役割は活動のコーディネートをすることだと思っている。地域で活動をする際には細かい連携が必要となる。地域と学校を，地域の方と生徒との間を結ぶコーディネーターとしての力が求められる。

これからも，授業の充実と学校家庭クラブの活性化を目指し，地域との繋がりを深め，食文化の伝承を図る教材開発に取り組んでいきたい。